

神戸女学院大学音楽学部卒業生による

クラブ ファンタジーの夕べ

クラブ ファンタジー

創設60周年記念

2011年11月8日(火) 午後7時

いずみホール

主催 クラブ ファンタジー (神戸女学院大学音楽学部同窓会)
後援 神戸女学院教育振興会 公益社団法人神戸女学院教育文化振興めぐみ会

第1回卒業生は1907年（明治40年）



クラブ ファンタジー会長
神戸女学院大学名誉教授

岡田 晴美
(63/M67)

1907年（明治40年）に最初の卒業生を出した音楽部（当時の名称）は、英文科と共に神戸女学院のもっとも古くからある学部でございます。

「音楽学部の卒業生が協力し励まし合って、研究や音楽活動を続けましょう。」と、1951年（昭和26年）にクラブ ファンタジーが発足致しまして、今年60周年を迎えました。

現在、会員も2600余名を擁し、多くの方々が日本国内はもとより、海外でも活躍して下さっております事は、誠に喜ばしい事でございます。卒業生がこのように活躍できますのも、伝統ある神戸女学院のキリスト教教育と、心の通った恩師、先輩、友人を得たおかげであると確信しております。

本日は、指揮に外山雄三氏を迎え、卒業生を中心にオーケストラを結成し、様々なジャンルからソリストの協力を得て、記念コンサートを催す事となりました。これだけ立派な卒業生を輩出しておりますので、是非、卒業生も神戸女学院の専任教師に、と願いますのは、私達の強い希望なのでございます。

クラブ ファンタジーの会員は、今後も溢れる愛校心をもって、誠に微力ではございますが神戸女学院を支えて参りたいと存じます。何卒、皆様のお導き、そしてお力をお与えくださいますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、この記念コンサートのために一方ならぬお世話を下さいました音楽学部の先生方、そして出演者の皆様に感謝を捧げたいと存じます。

神様のご意志に添って世界の平和が保たれます事を、心から願いつつ…。



神戸女学院大学音楽学部長

澤内 崇

ごあいさつ

神戸女学院大学音楽学部同窓会「クラブ ファンタジー」の創設60周年と、記念コンサートの開催を心よりお祝い申し上げます。

私たち音楽学部は、クラブ ファンタジーの皆さまより常に温かく大きなご支援を頂いております。新人演奏会をはじめ、各種音楽会への後援およびチケット負担、総合成績最優秀学生への「クラブ ファンタジー賞」の設置、ウィーンおよびザルツブルク・モーツアルテウムへの海外研修助成制度の奨学金提供等々、物心両面にわたって強く支えて頂いております。本当にありがたく思うと同時に深く感謝しております。さて「クラブ ファンタジーの夕べ」は音楽学部卒業生の演奏活動の場として毎年開催されてきましたが、今回は60周年を記念し、外山雄三氏指揮による神戸女学院卒業生オーケストラとの協演となりました。ソリストには内田鈴子、奥村智美というピアノ界の大御所的な先生方、中堅として現在大活躍中の斎藤言子先生、若手からは菊本恭子、別所ユウキ両氏と、各世代を代表する方々となっています。

今夜は音楽学部卒業生の長く豊かな歴史の一端を垣間見ることができるのではと胸躍らせております。

クラブ ファンタジー創設60周年によせて



学校法人神戸女学院
理事長・院長
森 孝一

クラブ ファンタジー創設60周年記念「クラブ ファンタジーの夕べ」の開催をお祝い申し上げます。また今春の叙勲で、クラブ ファンタジー会長の岡田晴美先生が瑞宝小綬章を受章され、二重のお喜びとなりましたことを、重ねてお祝い申し上げます。

1951年の発足以来、クラブ ファンタジーは代々の役員の方々の皆さま、会員の皆さまの母校に対する深い愛と力強いご支援によって、今日まで神戸女学院大学音楽学部の発展に大きな貢献をなしてこられました。心より御礼申し上げます。

音楽学部だけでなく、日本の私立大学は厳しい競争の時代を迎えています。大学の評価と競争力を高めるための最も重要な要素は、質の高い卒業生を輩出することであるのは言うまでもありません。総合成績最優秀の卒業生への「クラブ ファンタジー賞」設置、音楽学部新人演奏会のチケット支援など、学びのインセンティブを高めるためのご支援をいただいておりますことは、音楽学部在学学生にとって大きな励みになっていることと確信いたしております。

とくに音楽の分野での学びは、卒業後の演奏活動によって高められ深められるものでありましょう。クラブ ファンタジーが神戸女学院大学音楽学部に巣立った若手演奏家たちに、発表の機会を継続して提供して下さっていることに、改めて感謝の意を表したいと思えます。

今宵の演奏会を十分に楽しませていただき、クラブ ファンタジーの今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

神戸女学院の響きを！



神戸女学院大学
学長
飯 謙

クラブ ファンタジーの創設60周年と、それを記念する「クラブ ファンタジーの夕べ」のご開催を心よりお慶び申し上げます。また日頃より、神戸女学院の教育をお支え、お導きくださいますことに、感謝申し上げます。会長であられる岡田晴美先生をはじめ、ご関係の皆さまのご努力とお骨折りを思い、一同、深い敬意を表するものでございます。

ここで述べるまでもなく、クラブ ファンタジーは、神戸女学院で音楽を学ばれた皆さまによって構成されています。音楽教育は、神戸女学院において創立以前の私塾時代から大切にされてきた部門で、専門課程としても百年を優に超え、わが国でもっとも長い歴史を綴ります。この点で、音楽学部とその卒業生の皆さまの歩みは、そのまま神戸女学院の足跡につながります。

神戸女学院の土台となる聖書は、讃美にあたって、図像ではなく、音楽に重要な位置を与えました。それは、作品が完成によって固定されてしまう造形芸術よりも、その度ごとに、その場にいる人々の気持ちを結集して、その時のために創造される音楽がふさわしい精神の有り様を示すゆえだと言われます。このことを覚え、皆さまがこれからも、隣人に慰めと励みをもたらす共感の輪を造る神戸女学院の響きを、日々新たに奏で続けられますようにとお祈り申し上げます。

パワーと魅力いっぱい！

大阪音楽大学客員教授

音楽評論家 日下部 吉彦

クラブ ファンタジー創設60周年、おめでとうございます。

“女学院”といえば“神戸女学院”のこと、というのが一般的な常識です。“女学院”と名のつく学校は関西をはじめ、東京にも九州にも全国にたくさんありますが、なぜか“女学院”は“神戸女学院”と決まっているのです。

それほど歴史が古く、水準が高く、そして美人揃いという評価が定着しているからでしょう。とりわけ男子の大学生にとっては、憧れの的でありました。

女学院音楽学部OGの団体である「クラブ ファンタジー」の顔ぶれを見ても、そのことがはっきりわかります。会長の岡田晴美さんをはじめ、個性的で、輝きのある顔ぶれが揃っていますね。先日、大阪のホテルで催された「岡田晴美先生瑞宝小綬章受章お祝いの会」に出席して、そのことを痛感しました。

大震災や経済不況などで、今の日本は決して明るいとは言えませんが、クラブ ファンタジーが中心になって日本の音楽界を、さらには日本の社会を、明るく元気にしてほしいものと切望します。

皆さんには、それだけのパワーと魅力があります。

「クラブ ファンタジーの夕べ」によせて

同志社大学教授（音楽学） 根岸 一美

2003年のことでしたが、当時私が勤めておりました大阪大学の研究プロジェクトのために、音楽学部オーケストラの皆様にご依頼いただき、ヨーゼフ・ラスカのバレエ・パントマイム「父の愛」の管弦楽ヴァージョンを世界初演していただきました。ラスカは1928年4月、音楽学部に楽式論、合唱、管弦楽、対位法担当の教授として着任したのですが、「父の愛」はその数年前に日本で完成したものの長い間演奏の機会を見ないままにオーストリアの図書館に眠っていた楽譜です。初演に際しては手書きの譜の判読を含めて、指揮の中村健先生をはじめ多くの皆様にたいへんお世話になりました。こうした研究のなかで知ったのは、ラスカが当時の先生方やときには学生たちも含めて音楽会の活動を展開していたということです。一つはClub Concordiaで「心を同じくする仲間たち」といった意味ですが、彼が着任して間もなく創設され、ピアノのフツィエフ女史をはじめ、多くの先生方が演奏に参加されました。もう一つは1933年に発足したMusica Sacraで、ラスカが日本を離れる1935年まで9回にわたって宗教音楽を中心に数々の作品を紹介していきました。

「クラブ ファンタジー」の成り立ちにつきましては、遠い前史としてこうした活動があったのではないかと想像しております。創設60周年という大きな節目を迎えられたことをお慶び申し上げますとともに、これからも新たな創造と交わりの場としてますます発展していかれそうです。



菊本 恭子 (きくもと やすこ) ●ヴァイオリン

ヴァイオリンを高瀬乙慈、東儀祐二、亀田美佐子、田中千香土、稲庭達の各氏に師事。全日本毎日学生音楽コンクール入選。神戸女学院大学音楽学部卒業。ハンナ・ギュリック・スエヒロ記念賞受賞。同大学音楽専攻科修了。イタリア、ドイツなど国内外の音楽祭に参加しG. ボッセ、S. ガブリエロフ、F. メッツェーナ、O. クリサ各氏のマスタークラス受講、修了演奏会に出演。99年大阪府芸術劇場奨励新人賞受賞。00年、04年いづみホールにてリサイタル開催。これまでソリストとして、ヴィヴァルディ「四季」、またバッハ、ハイドン、ベートーヴェン、メンデルスゾーン、チャイコフスキーなど数々のヴァイオリン協奏曲を国内外のオーケストラと共演。96年～03年神戸女学院大学非常勤講師。現在、同大学オーケストラ要員。神戸女学院めぐみ会音楽教室講師。神戸音楽家協会、神戸フォーレ協会、枚方演奏家協会、各会員。



別所 ユウキ (べっしょ ゆうき) ●ピアノ

幼少期をヨーロッパで過ごす。11歳の時、最年少でベルギー・ブリュッセル王立音楽院への入学が許可され、わずか1年でPremier prixを得る。帰国後、神戸女学院大学音楽学部にて中野慶理氏、セルゲイ・ミルシュタイン氏に師事する。ハンナ・ギュリック・スエヒロ記念賞、クラブ・ファンタジー賞を受賞し、首席で卒業した後、ブリュッセル王立音楽院（フランス語圏）マスター課程に入学する。ベルギー政府フランス語圏、ベルギー・ショパン財団や神戸女学院大学（那須姉妹奨学金）より奨学金を得て研鑽を積み、首席でディプロマを取得。その間、ニューポート国際音楽コンクール（イギリス）第3位及び審査員特別賞、アンドレ・デュモルティエ国際音楽コンクール（ベルギー）第2位など数々の国際コンクールに入賞する。BBCウェールズ交響楽団、Tournai室内管弦楽団などとの共演をはじめ、室内楽においても活動を行う。



内田 脛子 (うちだ れいこ) ●ピアノ

神戸女学院（現大学）音楽学部卒業。井口基成、山田康子、浅田綾子の各氏に師事。1950年第19回日本音楽コンクールピアノ部門第1位並びに特賞を受賞。1955年大阪市民文化祭賞、1956年毎日音楽賞・新人奨励のための特別賞、2002年宝塚市民文化賞を受ける。東京、大阪などでリサイタルを開催。大阪フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、東京交響楽団、アルカディア室内管弦楽団、テレマン室内管弦楽団、モーツァルト室内管弦楽団等と協演。

NHKラジオ、室内楽コンサートの出演も数多い。現在、相愛大学名誉教授。日本ショパン協会関西支部理事、宝塚演奏家連盟運営委員。



奥村 智美 (おくむら さとみ) ●ピアノ

神戸女学院大学音楽学部ピアノ専攻卒業。浅田綾子、チエコ・カサドの各氏に師事。コンツェルト、リサイタル、放送、TV等に活躍した後、1962年兵庫県教育委員会より、海外派遣奨学金を受け渡米。ジュリアード音楽院に入学し、授業料全免奨学金を受け、E. ストウヤマン氏に師事。Post Graduate Diplomaを修得し卒業。帰国後は母校で後進の指導をしつつ、リサイタル、デュオコンサート開催。大阪フィルハーモニー、京都交響楽団、テレマン室内楽団、モーツァルト室内楽団等と協演。中国、韓国、ウクライナへの海外演奏会等の演奏活動を続ける。2003年3月神戸女学院大学教授を退任。宝塚市の文化活動に携わり2004年宝塚文化功労賞、2008年宝塚市民文化賞を受ける。宝塚市文化振興財団理事。日本演奏連盟、日本ピアノ教育連盟、宝塚演奏家連盟会員。



斉藤 言子 (さいとう ことこ) ●ソプラノ

神戸女学院大学音楽学部卒業、同研究生修了、ミラノヴェルディ音楽院（オペラコース）、南カリフォルニア大学（神戸女学院からの客員研究員）に留学。岡田晴美、フランコ・フェラーリス、マリア・カルポーネの各氏に師事。日本、イタリア、アメリカにてオペラ主演（ルチア、フィガロの結婚、リゴレット、バリアッチ、蝶々夫人、椿姫、トスカ、ラ・ボエーム、ノルマ、天守物語etc.）、リサイタル、第九シンフォニー、メサイアはじめ宗教曲ソロ、放送、オーケストラとの共演などで好評を得る。なにわ芸術祭新人奨励賞、イタリア声楽コンクール第一位ミラノ大賞はじめ国際声楽コンクール（パッサリアーノ、バヴィア、ローディ、ベッリーニ）に入賞。和歌山市文化功労賞、大阪国際音楽コンクール最優秀指導者賞受賞。現在、神戸女学院大学音楽学部教授、神戸山手女子高校非常勤講師。関西二期会副理事長。NHK全国学校音楽コンクール、日伊声楽コンクール等審査員。日本演奏連盟、宝塚演奏家連盟会員。



©三浦 興一

外山雄三(指揮)

1931年東京生まれ。東京音楽学校(現在の東京芸術大学)で作曲を学び、在学中の1951年「クラリネット、ファゴット、ピアノのための<三つの性格的断片>」で第20回音楽コンクールに入賞。1952年卒業と同時にNHK交響楽団に打楽器練習員として入団。1954年には指揮研究員となり、1956年9月にNHK交響楽団を指揮してデビュー、以後各オーケストラに数多く客演を開始。1958年から1960年にかけてウィーンに留学。1960年NHK交響楽団の世界一周演奏旅行に同行し、ヨーロッパ各地12ヶ国で演奏。指揮者としてばかりでなく自作の「管弦楽のためのラプソディー」によって作曲家としてもその名をひろめた。その後1964年、1966年、1979年のNHK交響楽団海外公演を指揮、1979年にはNHK交響楽団正指揮者に就任した。1985年にはニューヨークで開催された国連40周年記念コンサートにNHK交響楽団とともに出演、全世界に放送された。国内では大阪フィル、京都市響、名古屋フィル、神奈川フィル、仙台フィルの要職を歴任。海外でも日本を代表する指揮者・作曲家として、たびたびオーケストラや国際コンクールなどに招かれている。オペラ指揮の分野でも、その緻密な音楽作りが高く評価されており、1999年三善晃作曲「支倉常長<遠い帆>」、2006年一柳慧作曲「愛の白夜」各初演での圧倒的な名演が記憶に新しい。これまでに作曲した作品はオペラ、バレエ音楽、ミュージカル、劇音楽、交響曲、協奏曲、管弦楽曲、室内楽曲、歌曲、合唱曲など多岐にわたる。

1963年第12回尾高賞、1981年第1回有馬賞、1983年第14回サントリー音楽賞、

1999年文部大臣表彰、2000年第48回尾高賞を受賞。

現在、NHK交響楽団正指揮者、スウォン・フィルハーモニック管弦楽団名誉指揮者(韓国)を務めている。愛知県立芸術大学客員教授。<http://www.yuzo-toyama.com/>

クラブ ファンタジー・フェスティバルオーケストラ

コンサートミストレス ※松永 みどり

Violin	阿部 敦子 蓮江久美子 岩永美知子 三木 啓子 龍治 史子	阿保由美子 廣津 智香 岩谷 尚子 中谷 葉子 豊島 直子	有澤 智美 今井 令子 小林真奈美 根来 潤子 宇治 広子	藤原由美子 板谷真以子 栗山 映子 西田久美子
Viola	道幸 明美 金本 洋子	土井 茉莉 岡本万里子	石田美紀子 佐々木麻起子	井爪 良子 吉田登紀子
Violoncello	*高岡 奈美 *後藤 敏子	*荻野 健 *成川 昭代	*若松さより	*柏森 治
Contrabass	※南出 信一	黒田 栄美	*財原 夏子	*赤松 里美
Flute	※安藤 史子	吉村麻衣子	濱 裕奈	
Oboe	*岩永 健三	庄田 真弓		
Clarinet	※岡田 孝夫	久保 明子		
Fagotto	※瀧本 博之	*佐々木威裕		
Horn	*向井 和久	*山添 純	*世古宗 優	細見由紀子
Trumpet	*菅沼 真一	*小泉 奈那		
Trombone	*菅崎 誉	*本澤 真紀	*田村 佳子	
Tuba	*田村 知也			
Percussion	*田中 雅之	田中 利佳	愛新 理絵	
Harp	鈴木 貴子			

(※音楽学部非常勤講師 *客員)

クラブ ファンタジー

神戸女学院大学音楽学部は1906年に開設されました。その卒業生の会としてクラブ ファンタジーが1951年に発足致しました。本会は会員相互の研究及び親睦と交流を目的としています。“クラブ ファンタジーの夕べ”は会員の研究および発表の場を持つために毎年開催いたしております。今回の創設60周年記念演奏会にあたり、卒業生有志を中心とするクラブ ファンタジー・フェスティバルオーケストラが結成されました。



クラブ ファンタジーの夕べ 演奏会記録

- 1951. 11. 6 大阪ガスビルホール
 日下部和子(68) 西川 尚子(67) 島田きみ子(65)
 岡本 房子(65) 横橋 新子(59) 島 暢子(68)
 岡田 晴美(67) 畑 きみ子(58) (伴奏)伊丹多摩子(67) 原 竹子(58)
- 1952. 11. 21 大阪産経会館
 野崎 佳子(43) 古畑 敦(50) (伴奏)塚本 保子(65)
- 1953. 5. 16 神戸商工会議所
 菅野 瑛子(69) 西占 操(66) 吉岡 秀子(67)
 塚本 保子(65) 崎山俱仁子(68) 植村 勲子(67)
 山本 智子(63) (伴奏)朝倉 和子(70)
- 1955. 7. 16 精道小学校
 興地美沙子(72) 清水 幸子(72) 香川寿満子(68)
 今林 孝子(63) 木村 洋子(71) 北岡三和子(72)
 魚住千代子(72) 今井 たみ(52) 竹内 秋子(72)
 那須 佑子(62) 村上 佳子(57) (伴奏)高津 澄子(61) 横田 新子(59)
- 1956. 精道小学校
 吉川巳代江(70) 菊池 美保(73) 紀 道子(73)
 魚住千代子(72) 佐藤三和子(72) 呉竹 秋子(72)
 (伴奏)伊藤美沙子(72)
- 1957. 6. 8 神戸新聞会館
 辻 智美(74) 塚本 保子(65) 安見 泰子(66)
 周 雪麗(74) 村上 佳子(57) 宇治田弘子(74)
 (伴奏)高橋 文子(74) 横田 新子(59)
 ハウスライト先生とK.C.音楽学部コーラス
- 1958. 9. 16 神戸国際会館
 尾崎 文子(75) 吉川巳代江(70) 内田 脛子(67)
 木村 洋子(71) 中島 淑子(75) 片岡 靖子(75)
 向井久美子(74) 松枝 良子(67) 鈴木奈津子(75)
 (伴奏)平木 洋子(75) 吉田 文子(74)
 中島多摩子(67)
- 1959. 7. 6 神戸国際会館
 塚口教会建設資金援助のため
 畑 きみ子(58) 塚本 保子(65) (伴奏)豊田 寿子(61)
- 1960. 11. 4 神戸国際会館
 大石 明子(77) 堀口 邦子(76) 新庄美沙子(75)
 松本 勝代(77) 桑田 絲子(76) 大槻 道子(77)
 加藤 信子(76) 瀬田 弘子(74) 井原 弘子(77)
 (伴奏)横山 容子(77) 八木美与子(76)
 実方恵美子(77)
- 1962. 5. 15 神戸国際会館
 土屋知加子(79) 今嶺 尚子(79) 横山 容子(77)
 長治 邦子(79) 下田 閑子(63) 岡田 桜子(74)
 ラーソン先生とK.C.音楽学部コーラス
- 1971. 12. 7 毎日ホール(20周年記念コンサート)
 岡田 晴美(67) 内田 脛子(67)
- 1972. 9. 19 兵庫県民小劇場
 安見 泰子(66) 桑田 絲子(76)
- 1973. 11. 9 兵庫県民小劇場
 店村真知子(89) 上柳 明子(86) 萩本 節子(89)
 小椋 典子(88) 松永みどり(88) 志村 雅子(88)
 (伴奏)榎原 節子(89) 顕谷三綾子(85)
- 1976. 10. 8 兵庫県民小劇場
 奥村 智美(74) 山内 祝子(80)
- 1977. 12. 21 兵庫県民小劇場
 坪田 暁子(93) 黄堂 英美(90) 高倍美知子(90)
 (伴奏)榛葉真理子(93)
- 1978. 10. 9 兵庫県民小劇場
 榛葉真理子(93) 三本 陽子(92) 山内 鈴子(91)
 片倉美千子(94) 寺岡 孝子(94) 田中 淳子(94)
 橋本 有子(92) (伴奏)内尾 睦子(94) 鍋島 治子(95)
- 1979. 10. 26 兵庫県民小劇場
 奥 千恵子(95) 後藤 恭栄(92) 芹田 杏子(86)
 北村 真理(96) 平井満美子(95) 松井 智恵(95)
 有沢 智美(93) 永井麻利子(91) (伴奏)田中 景代(96) 鍋島 治子(95)
 丸山 光幸(95)
- 1980. 10. 16 兵庫県民小劇場
 鍋島 治子(95) 久保 礼子(84) 菊池 由子(95)
 斉藤 言子(94) 松崎 裕子(94) (伴奏)中出 安子(95) 内尾 睦子(94)
- 1981. 5. 8 兵庫県民小劇場
 秋原 恵子(97) 津島なをみ(97) 遠越 祐子(97)
 朝日 雅子(97) 荒田 祐子(97) 白樫 順子(97)
 (伴奏)田中 由紀(97) 田中 景代(96)
 小松 典子(97)
- 1982. 10. 22 兵庫県民小劇場
 牧 淑子(98) 鳥居 和世(96) 昆 優理(95)
 八木 宣子(96) 蒲原さなみ(99) 川端 蓉子(98)
 小屋 昌子(97) (伴奏)田川 敦子(99) 坂口 摩耶(96)
 山口 カヨ(98) 田中 景代(96)
- 1983. 10. 28 兵庫県民小劇場
 顕谷三綾子(85) 久保佳永子(88) 苗村 紀子(85)
 魚住千代子(72) 橋本 保子(86) 真田 和子(87)
 道幸 明美(93) 山口 香子(86) 久保 礼子(84)
 (伴奏)坂井真理子(93)
- 1984. 10. 31 兵庫県民小劇場
 岩田 朋子(100) 小林城光恵(86) 湊 朱美(77)
 中尾 仁美(100) 山田 郁子(100) 末廣 孝子(94)
 関 由利子(86) (伴奏)内田 博世(100) 堀 早苗(89)
- 1985. 10. 25 兵庫県民小劇場
 氏田 敬子(101) 須田麻起子(95) 鈴木 順子(101)
 西田久美子(90) 山本 基子(100) 斎藤 真理(101)
 (伴奏)飯野 友子(101) 堀切 尚子(101)
 内田 博世(100) 山内 鈴子(91)
- 1986. 10. 24 兵庫県民小劇場
 岡本美生子(101) 大内山裕美子(91) 上田 佳子(100)
 尼子 操(100) 渡壁 絵美(100) 蓮江久美子(84)
 石原 恭子(86) 飯野奈津子(75) 飯野 友子(101)
 (伴奏)内田 博世(100)



- 1987. 10. 29 兵庫県民小劇場
池田 麻里(103) 小堀加寿子(98) 松村美知子(90)
島田 準子(101) 吉野 佳子(103) 田中由紀子(85)
(伴奏)堀切 尚子(101) 山口 加代(98)
- 1988. 11. 15 兵庫県民小劇場
会田裕美子(104) 大江 美香(104) 二滝 範子(96)
藤井 裕子(92) 木澤 由美(104) 丸尾 勝代(77)
(伴奏)斎藤 朋美(104) 岩村 由紀(90)
- 1989. 10. 25 兵庫県民小劇場
笠井 節子(104) 俵 京子(104) 林 規子(100)
水田 順子(105) 井澤 明子(104) 内海 節子(89)
(伴奏)廣瀬 裕子(105) 原納 潤子(104)
岩村 由紀(90)
- 1990. 11. 21 宝塚ベガ・ホール
濱野 三華(105) 塙坂 仁美(102) 太宰 まり(92)
西村きく子(102) 鹿島 満美(104) 木岡 基子(104)
(伴奏)松田はるひ(102) 俵 京子(104)
- 1991. 12. 12 いずみホール(40周年記念コンサート)
黒瀬紀久子(92) 山内 鈴子(91) 大川内玲子(87)
南 裕子(86) 松永みどり(88) 荒田 祐子(97)
斎藤 言子(94) 田中 潤子(94)
(伴奏)内尾 睦子(94) 神吉 泉(105)
- 1992. 10. 19 宝塚ベガ・ホール
入谷 知子(91) 中矢 紀子(109) 鈴木 貴子(103)
星島佐吉子(106) 石田 恭子(102) 山本 牧子(102)
(伴奏)池田 育子(106) 氏田 敬子(101)
池田 純子(102)
- 1993. 11. 18 宝塚ベガ・ホール
田中 規子(110) 土橋 都子(106) 一瀬 美子(107)
細見由紀子(109) 織田 郁子(108) 田中万由里(105)
(伴奏)藤溪 優子(108) 氏田 敬子(101)
島 敏子(108)
- 1994. 11. 8 宝塚ベガ・ホール
中山美奈子(111) 奥村 真理(100) 肥塚麻紀子(109)
前田 直子(105) 本田淳子(専111) 森川 華世(109)
(伴奏)川本佳代子(109) 滝田 純子(110)
島崎 央子(109)
- 1995. 11. 13 宝塚ベガ・ホール
川本佳代子(109) 桐田由希子(108) 岩崎 美穂(103)
築野友理香(109) 三澤多加子(101) 中谷 純子(109)
(伴奏)中道ゆう子(109) 酒井百合子(101)
川鍋あづさ(109)
- 1996. 11. 8 宝塚ベガ・ホール
日置真由美(111) 前田真由美(109) 渡辺 啓子(108)
川崎 佳子(110) 片桐 聖子(109) 小林 彩(111)
木下千佐子(109)
(伴奏)小幡 麻紀(111)
- 1997. 11. 10 宝塚ベガ・ホール
中島 順子(110) 佐藤 仁美(111) 前田 綾子(111)
小幡 麻紀(111) 田中 潤子(94) 黒瀬紀久子(92)
(伴奏)中矢 紀子(109)
- 1998. 11. 20 宝塚ベガ・ホール
菊本 恭子(109) 小池 泉(105) 船木真理子(110)
丸山 有子(92) 南 裕子(86)
(伴奏)中道ゆう子(109) 石井なをみ(97)
- 1999. 11. 1 宝塚ベガ・ホール
秋田 直美(109) 福嶋 千夏(113) 藤本真基子(112)
井上 和世(86) 大川内玲子(87)
(伴奏)森田 有香(110)
- 2000. 11. 16 宝塚ベガ・ホール
山内 鈴子(91) 濱田 あや(111) 黄堂 英美(90)
長谷川博子(108) 唐澤まゆ子(110)
(伴奏)岩田 朋子(100) 山岸 千明(108)
山岸 陽子(110)
- 2001. 11. 1 いずみホール(50周年記念コンサート)
安藤 史子(102) 神谷 朝子(105) 野村 幸代(102)
荒田 祐子(97) 釜洞 祐子(97)
(指揮)黒岩 秀臣
クラブ ファンタジー・フェスティバルオーケストラ
- 2002. 11. 4 宝塚ベガ・ホール
黒田 育世(115) 細見由紀子(109) 工藤 真史(111)
芦原 昌子(97) 太宰 まり(92)
(伴奏)小幡 麻紀(111) 夏川美知子(97)
- 2003. 11. 10 宝塚ベガ・ホール
稲葉 綾(114) 岡 令子(110) 岡谷かおり(111)
安藤 史子(102) 久保 明子(116) 黒田 育世(115)
石井なをみ(97) 斎藤 言子(94)
(伴奏)山岸 陽子(110) 黒瀬紀久子(92)
- 2004. 11. 1 宝塚ベガ・ホール
吉村麻衣子(112) 山内 信子(113) 神田 美幸(113)
大野 和子(104) 安藤 史子(102) 松永みどり(88)
(伴奏)小幡 麻紀(111) 藤本真基子(112)
- 2005. 11. 7 いずみホール
高考 美帆(110) 久保 明子(116) 高濱 由衣(118)
岩田 朋子(100) 浅井 順子(97)
(伴奏)森玉 美穂(116) 藤溪 優子(108)
小林かずみ(97) 安藤 史子(102)
- 2006. 11. 6 いずみホール
森玉 美穂(116) 鄭 里花(115) 追中 宏美(111)
丸尾喜久子(93) 菊本 恭子(109) 葛本 博美(99)
(伴奏)蛭川 千佳(119)
- 2007. 11. 12 いずみホール
林 美枝(113) 細田 紗希(119) 鈴木さやか(117)
有澤 智美(93) 道幸 明美(93) 熊谷 啓子(101)
添田 ゆみ(108)
(伴奏)松川 峰子(120)
- 2008. 11. 5 いずみホール
田中 裕絵(123) 板谷真以子(115) 増永 智子(120)
松川 峰子(120) 中村美生子(101) 西 順子(99)
(伴奏)中村 友美(99) 森玉 美穂(116)
- 2009. 11. 9 いずみホール
竹田 景子(123) 宗本 舞(121) 城 奈緒美(113)
中野 真理(100) 鹿島 満美(104)
(伴奏)小幡 麻紀(111) 大江 美香(104)
- 2010. 11. 8 いずみホール
山崎 敦子(116) 喜多ちひろ(127) 高橋 智子(115)
プティ・タ・プティ(青島 順子(96) 久泉 寛美(99)
黒江 薫(99) 宮脇 伸子(99) 永松 久美(102)
塩見 玲子(93) 末廣 孝子(94) 渡沼 雅子(97))
前田 直子(105)
(伴奏)藤溪 優子(108) 田中 景代(96)
金月 里紗(125)

◆モーツァルト：歌劇《フィガロの結婚 Le nozze di Figaro》序曲 K. 492

ヴォルフガング・A・モーツァルト (Wolfgang Amadeus Mozart, 1756-91) の20を越す歌劇のうち、《フィガロの結婚》は1785年から翌年に作曲された。幼い頃からヨーロッパ各地を旅した彼はザルツブルグ大司教との折り合いが悪く、1781年に故郷を離れる。以後、亡くなるまでの10年間を過ごしたウィーンでの作品で、P. ボーマルシェによる3部作からL. ダ・ポンテが歌詞台本を書き、完成の年に初演された。

筋書きは『セビーリヤの理髪師』に続く第2作にもとづく。アルマヴィーヴァ伯爵、夫人となったロジーナ、侍女スザンナと婚約者フィガロ、小姓ケルビーノや医者バルトロ等が登場し、伯爵の浮気心を懲らしめて大団円で終わる。序曲は独立した器楽曲で、物語の雰囲気や反映した軽快さと活気にあふれている。

◆ショーソン：《詩曲 Poème》作品25

エルネスト・ショーソン (Ernest A. Chausson, 1855-99) の《詩曲》は1896年に作曲、翌年献呈を受けたE. イザイによって初演された。草稿ではツルゲーネフの小説名から取られた《勝ち誇る愛の歌 — ヴァイオリンと管弦楽のための交響詩》で、その後《ヴァイオリンと管弦楽のための詩曲》に変更し、さらに《詩曲》へ変更を重ねた。

作品名の変遷は、P. ジョストによれば、ソナタ形式の枠組みより楽曲全体の雰囲気を重んじるようになった創作過程を反映している。実際、形式は「レント — アニマート — ポコ・レント — アレグロ」を経て主題が戻る5部分から成り、ソナタ形式的な有機的関連を持たずに自由である。また、憂いを帯びた旋律や色濃い和音、耽溺するような感情や和声法は、かねてより指摘されるフランクやワーグナーの影響も示している。

◆リスト：《ピアノ協奏曲第一番 変ホ長調 Konzert für Klavier und Orchester Nr. 1》

今年、生誕200年にあたるフランツ・リスト (Liszt Ferenc, 1811-86) は《ピアノ協奏曲第一番 変ホ長調》を1849年に作曲、1852年にベルリオーズ指揮とリスト独奏で初演が行われた。論壇の大物だったE. ハンスリックが、当時はまだ珍しい楽器が登場するのを指して「トライアングル協奏曲」と嘲弄した話は知られているが、この作品が21世紀になってもピアノ音楽の世界における巨匠の風格を示すことは言うまでもない。

全体は切れ目なく演奏され、内部は「急 — 急 — 緩 — 急」の自由な4楽章構成である。開始間もなくのカデンツァから終曲部分に至るまで、和音群の力感と旋律線の装飾感、駆け巡る運動性と抒情的な内面性など、独奏は豪華なピアノイズムを堪能させ、対峙する管弦楽と共にロマン派音楽の威容を誇っている。

◆モーツァルト：《二台のピアノのための協奏曲 変ホ長調

Konzert für 2 Klaviere und Orchester Nr. 10》K. 365

旅するモーツァルトの「マンハイム・パリ旅行」はいわば就職活動だった。成果はなく、同行の母も異郷の地で逝き、失意のうちにザルツブルグに帰郷したのは1779年初めである。《二台のピアノのための協奏曲 変ホ長調》はその頃作曲されたという説と、それ以前の1775-77年説があり、姉ナンネルとの演奏のために書かれた。

複数の独奏楽器のための協奏曲は18世紀後半にパリを中心に人気を博した。L. ラトナーによれば、モーツァルト作品では《三台のピアノのための協奏曲》や《フルートとハーブのための協奏曲》がこの系列に属する。いずれも「嬉遊曲」のような軽く明るい楽想にあふれ、快活なリズムと豊かな和声感の特徴としており、「アレグロ — アンダンテ — アレグロ〜ロンド」の3楽章で構成されるこの作品も、まさにそうした音楽である。

◆ドニゼッティ：歌劇《ランメルムールのルチア Lucia di Lammermoor》より

〈夜のとばりは静かに閉ざし Regnava nel silenzio〉

ガエターノ・ドニゼッティ (Gaetano Donizetti, 1797-1848) は1830-40年代に活躍した。「早書きの職人」と呼ばれるように、《愛の妙薬》をはじめとして約70の歌劇を創作している。《ランメルムールのルチア》は1835年に作曲、ナポリで初演された作品で、原作はW. スコットの『ラマムーアの花嫁』、S. カンマラーノが台本を書いた。

〈夜のとばりは静かに閉ざし〉は庭園の泉の場面で、恋人エドガルドを待ちながらルチアが歌う、泉にまつわる不吉な物語である。19世紀イタリア歌劇においては、第1幕で主役が初めて歌う部分を「カヴァティーナ」、続いて歌われる速い部分を「カバレッタ」と呼んだ。本アリアもこの形式を踏襲した聴きどころで、兄エンリーコの企んだ政略結婚がルチアに正気を失った死への道を歩ませるといふ、劇的な結末を予感させる。

◆ヴェルディ：歌劇《椿姫 La traviata》より

〈あゝそは彼の人か Ah! Fors' è lui che l'anima 花から花へ Sempre libera degg' io folleggiare〉

19世紀イタリア歌劇界、後半の巨星はジュゼッペ・ヴェルディ (Giuseppe Fortunino Francesco Verdi, 1813-1901) である。初期は愛国的な題材も取り上げたが、1850年代に入ると登場人物の性格や内面の描写を追及するようになった。《椿姫》は《リゴレット》や《トロヴァトーレ》と並ぶこの時期の傑作で、A. デュマによる原作からF. ピアーヴェが台本を書き、1853年に作曲、ヴェネツィアで初演された。

〈あゝ、そは彼の人か～花から花へ〉は第1幕で主役ヴィオレッタによって歌われる。ドニゼッティ作品と同様の定型にもとづき、アルフレッドの熱い想いに動かされて自らの恋を歌う「カヴァティーナ」に、娼婦である運命を揶揄するかのような華麗な「カバレッタ」が続く。きらびやかなパリ社交界の光と影を感じさせる名アリアである。

参考文献：井上和男編『クラシック音楽作品名辞典』、*The New Harvard Dictionary of Music*. Peter Jost, Preface to Poem. Leonard G. Ratner, *Classic Music*.

生島 美紀子 (M92)

神戸女学院大学音楽学部作曲専攻を経て、スタンフォード大学大学院修了、音楽学で日本人初のMaster of Arts取得。大阪大学大学院に提出したアルチュール・オネゲルの論文で博士号。

神戸女学院にて大澤壽人先生の遺品資料を担当。現在、同大学非常勤講師、大澤資料プロジェクト代表。

Program

W. A. Mozart Opera " Le nozze di Figaro " ~ Overture K. 492
モーツァルト 歌劇「フィガロの結婚」序曲 K. 492

E. Chausson Poème Op. 25
ショーソン 詩曲 作品25

Violin : 菊本 恭子

F. Liszt Piano Concerto No. 1 in E flat Major
リスト ピアノ協奏曲第一番 変ホ長調
Allegro maestoso
Quasi adagio
Allegretto vivace - Allegro animato
Allegro marziale animato

Piano : 別所 ユウキ

* * *

W. A. Mozart Concerto for Two Pianos and Orchestra in E flat Major, K. 365
モーツァルト 二台のピアノのための協奏曲 変ホ長調 K. 365
Allegro
Andante
Rondo : Allegro

1st Piano : 内田 脛子
2nd Piano : 奥村 智美

G. Donizetti Regnava nel silenzio < Lucia di Lammermoor >
ドニゼッティ 歌劇「ランメルムールのルチア」より “夜のとばりは静かに閉ざし”

G. Verdi È strano ~ Ah ! Fors' è lui ~ Sempre libera < La Traviata >
ヴェルディ 歌劇「椿姫」より “あ、そは彼の人か~花から花へ”

Soprano : 斉藤 言子

Conductor : 外山 雄三

クラブ ファンタジー・フェスティバルオーケストラ